

総合科学技術・イノベーション会議 政策討議

御説明資料

平成29年11月9日

内閣府政策統括官(防災担当)

防災関連調査研究の社会実装

中央防災会議 防災対策実行会議

防災関連調査研究の戦略的推進ワーキンググループ 最終報告(平成29年3月)

- ・ **社会実装**を意識した総合的な視点からの研究の推進
 - ・ 研究成果を**社会実装**するための取組
- という視点から、今後のあるべき対応の方向性を提示

○学術連携等による総合的な視点からの防災・減災研究の推進

- ・ 研究者は、自らの調査研究が、実装先であるVulnerability(脆弱性)の変化を踏まえたものとなっているかを意識すべき。
- ・ 行政は実社会において明らかになっている課題を明確に研究者に示すべき。
- ・ 内閣府(防災担当)が中心となって、各研究機関や防災行政機関の役割を調整し、防災関連調査研究の体系化とその社会実装化を進めることができる組織・体制を構築するとともに、防災研究を一気通貫で進められるような仕組みを検討すべき。

○研究成果を社会問題解決に繋げるための評価の在り方

- ・ 社会実装に貢献すると考えられる調査研究への事前評価を高くするとともに、事後評価にあたっても優れた成果を挙げた調査研究については評価すべき。
- ・ 実装に関する他の研究への波及効果があった場合には積極的に評価すべき。

○研究成果を国や地域の防災・減災対策へ活かすための取組

- ・ 行政は、社会実装を目指して新技術等を試行的に使用する取組を進めるべき。

○研究者からの社会への発信

- ・ 研究者は、調査研究を通じて培った知見を実務に活かす実践の場に積極的に参加すべき。
- ・ 行政は、研究者が現場において実践する機会を積極的に提供すべき。

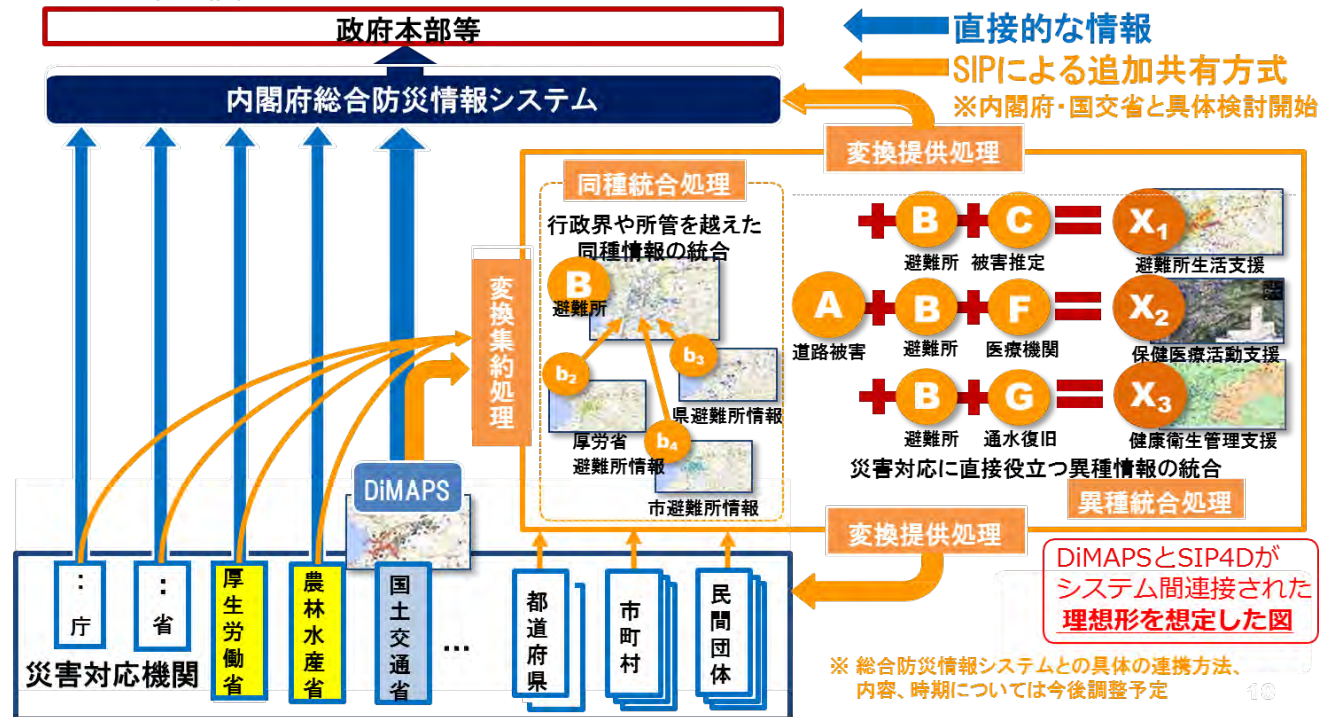
SIP防災の実装(SIP4Dの活用)

○内閣府防災担当では、**防災関係機関からの情報**をGIS(地理情報システム)を活用して**共通の地図に集約し、情報を共有**することを目的として、**総合防災情報システム**を構築

○現在設計を進めている次期総合防災情報システムにおいて、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が推進する**戦略的イノベーション総合プログラム(SIP)**において防災科学技術研究所が研究、構築しているシステム(SIP4D)で開発された技術を活用すべく、**次期総合防災情報システムとSIP4Dとの連携に向けて設計中**

災害対応の効率化を目指して、SIP4Dと司令塔である内閣府防災、実行部隊の中心となる国土交通省のシステムとの接続の検討・調整を進め、SIP終了までに少なくとも4府省庁システムとの連携を実現する

内閣府総合防災情報システムでのSIP4D活用のイメージ



※平成29年9月26日SIPシンポジウム2017における、堀宗朗PD説明資料から抜粋

SIP防災の実装(NerveNet、ICTユニットの活用)

内閣府防災が実施する首都直下地震を想定した立川広域防災基地周辺における中央省庁の災害対策本部設置準備訓練において、SIPにおいて情報通信研究機構が開発を進める、多拠点間で通信を確保する技術の有効性の検証と、災害対策本部を含む省庁間・内において迅速かつ効率的なコミュニケーションが実施できるかの実証実験が行われた。

【実証実験の概要】 (出典:堀宗朗PD資料をもとに作成)

- 電話、インターネットが使えない想定で、中防無線、MCA無線、**NerveNet+ICTユニット**を使用
- 代替本部8拠点(22省庁参加)間、応急ネット経由の電話、電話会議、文書共有、FAX等を使用

